

研究科・学部教授会議事録（平成24年5月24日（木））

平成24年4月26日（木）開催の研究科・学部教授会議事録について、確認の結果これを承認した。

報告・確認事項

1. 部局間連携の推進と担当者について

将来計画委員会委員長より、部局間教育連携についての取組・推進の進捗状況、担当者の説明があり、前回の教授会（4月26日（木））で承認された内容が再確認された。

2. 新しい6年制コースの取組・早期分野分属について

将来計画委員会委員長より、前回の教授会（4月26日（木））で承認された件について改めて説明があり、その内容が再確認された。

3. インターンシップについて

将来計画委員会委員長より、学生派遣について説明があり、前回の教授会（4月26日（木））で承認された内容が再確認された。

4. 連携大学院について

将来計画委員会委員長より、レギュラトリーサイエンスや薬事に精通した人材を育成し継続輩出するための連携大学院を進めること、病棟実習を充実させるシステムを構築することを目的とした連携大学院を進めることについて説明があり、その推進が再確認された。

協議事項

1. 学内委員について

研究科長から協議資料1に基づき説明があり、協議の結果、以下の委員を選出した。

男女共同参画推進オフィス室員

医療薬学教育研究部教授（H24.6.1-H26.5.31）

2. 招へい教員等の受入れについて

天然物化学分野教授から協議資料2に基づき説明があり、協議の結果、これを承認した。

また、研究科長から併せて称号付与について説明があり、協議の結果、これを承認した。

3. 兼業について

研究科長から協議資料3に基づき説明があり、協議の結果、これを承認した。

4. 阪大薬学らしい教育・研究について

研究科長から標記の件について具体化して発信していきたい旨の提案があり、意見交換の結果、以下のような意見が出された。

- ・物理、化学、生物、医療、そして環境の視点からのヒトの健康を考究し、ヒトの健康確保に貢献できる「人を意識した教育・研究」がひとつの阪大薬学らしさであること
 - ・大阪らしさという意味では、道修町など製薬企業が多いことが挙げられるため、寄附講座の設置検討を含め、企業との連携を図ることが阪大薬学らしさにつながることも
- なお、本件は将来的な戦略の根幹となるものであるため、引き続き構成員が意識を持つ

て考え、意見交換することとした。

5．本省等有識者を招いた講演会・意見交換会について

評議員から、概ね月1回程度、本省等から有識者を招いて講演会を実施することについて提案があり、協議の結果、これを承認した。

なお、教員が集まりやすい教授会終了後に実施することとし、第1回目の講演会については6月28日教授会終了後とすること、また具体的には研究推進WGで企画することについて併せて承認した。

6．早期分野分属について

研究科長から協議資料6に基づき説明があり、協議の結果、これを承認した。

なお、具体的な実施体制などについては、教育推進WG及び学務会議において検討することとした。

7．委員会の効率化について

神経薬理学分野教授から協議資料7に基づき説明があり、協議の結果、概ね承認され、引き続き検討することとした。

8．卒業研究発表会の日程について

神経薬理学分野教授から協議資料8に基づき説明があり、協議の結果、これを承認した。

9．オープンキャンパス（大学説明会）について

神経薬理学分野教授から協議資料9に基づき説明があり、協議の結果、これを承認した。

10．平成23年度決算報告書(案)及び平成24年度運営費交付金当初配分書(案)について

予算委員会委員長から協議資料10に基づき説明があり、協議の結果、これを承認した。